

人権啓発のつどい

第1回南部町人権問題研究集会

南部町の第一回人権問題研究集会が2月26日(土)にプラザ西伯で行われ、町民約120名が参加しました。

今回は、夜間中学を題材とした映画「こばんは」を上映し、教育現場からみえる人権問題について学びました。夜間中学は、さまざまな事情で学ぶことができなかつた人が、年齢、国籍を問わず学んでいます。教師と生徒の温かい人間関係。受験勉強のためでなく、本当に必要で生

きるために学ぶ姿がそこにあります。映画上映のあとで、その夜間中学で42年間教鞭をとられ、山田洋次監督の映画



見城先生の熱い講演

「学校(第一作)のモデルの一人、見城慶和先生を迎え、生の声を聴くことができました。」

見城先生は、夜間中学での長年の実践をふま

え、「(略)学校は、私たちのふるさとであり、勇気をくれるところであり、夢や理想を育むところである。「いま」は人生の時しかない。世の中、優等生ばかりじゃおもしろくないし、いろんな人間がいたほうがいい。一人ひとりが尊厳を持ち、人生の主人公である。自分らしさを大切にしてほしい。」と講演されました。

また、研究集会に先立ち、旧西伯町の人権スタンブラーにすべて出席された坂本延生さん(境)の表彰が行われました。坂本さんは「一人ひとりの意識改革がなければ人権問題の解決はない。それには自分が変わらなければ、人は変わらない。という想いで参加してきました。」と話されました。



表彰を受けられた坂本さん

参加者のみなさんの感想

「教育や学ぶということの本当の意味を知る、わかる内容でした。自分という人間を大切にすること(人権について)を気づかされ、勇気と元氣、希望をいただきました。」

「人に信頼されるとがんばる心が生まれるという言葉を聞き、お互いに信頼される親子関係、友人関係、夫婦関係を大切にしたいと思いました。」

「多様な考えや生き方、生きるスピードが認められる学校が本当の学校だと感じた。」

「お話を聞くことで前向きな気持ちになれました。今を大切にがんばろうと思います。また親として、子ども達が自分らしく生きていけるよう応援したいと思います。」

